

令和6年度 全国学力・学習状況調査 ～調査結果と指導改善のポイント～ 令和6年9月 釧路市教育委員会

4月18日（木）に実施された「令和6年度全国学力・学習状況調査」について、文部科学省が7月29日（月）に結果を公表した。

この資料は、本調査の釧路市における市立小・中学校及び義務教育学校の児童生徒の学力や学習状況を示すほか、調査結果から読み取ることのできる課題等を分析し、各教科における学習指導の改善に向けたポイント等を示したものである。

《調査の概要》

（１）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）調査の対象とする児童生徒

国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒が対象

ア 小学校調査 小学校第6学年、義務教育学校第6学年

イ 中学校調査 中学校第3学年、義務教育学校第9学年

（３）調査事項

ア 児童生徒に対する調査

（ア）教科に関する調査〔国語、算数・数学〕

（イ）質問調査（児童生徒に対する学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

イ 学校質問調査

（ア）学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

（４）調査問題の内容及び結果

教科に関する調査問題は、国際的な学力調査の考え方や調査結果及び課題等も考慮しつつ、学習指導要領に示された各教科の目標及び内容等に基づいて作成されている。なお、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するといった整理は見直され、平成31年度より知識・活用を一体的に問う調査問題となっている。

国からは、調査結果について、学力面において細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないとして、平均正答率の小数点以下を四捨五入した整数値で結果が提供されているが、本資料においては、釧路市の児童生徒の学力や学習状況を過去の結果と継続的に比較するため、提供されたデータをもとに独自に算出した小数値で釧路市の状況を示している。

《集計対象 学校数・児童生徒数》

	小学校調査		中学校調査	
	集計対象学校数	集計対象児童数	集計対象学校数	集計対象児童数
全国（公立）	18,468校	947,579人	9,268校	875,952人
釧路市立	26校	901人	15校	933人

※集計対象児童生徒数・学校数は、4月18日に調査を実施した数である。

集計対象児童生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

I 本市の状況 ～教科に関する調査結果の概要～

- 小学校では、国語において全国平均を上回っている。算数においては全道平均を上回っており、全国平均に肉薄している。
- 中学校では、国語、数学とも全国平均を下回る結果となっているものの、全道平均に肉薄している。

平均正答率

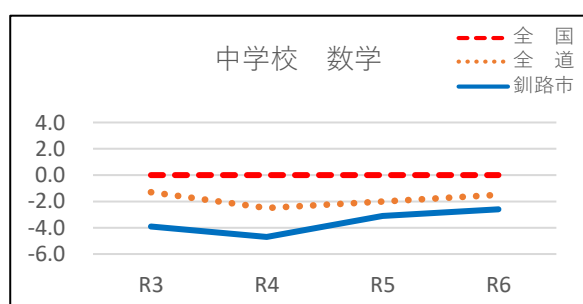
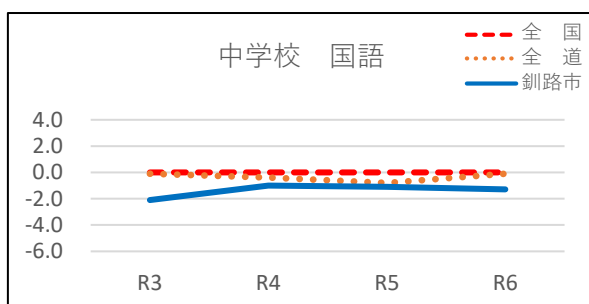
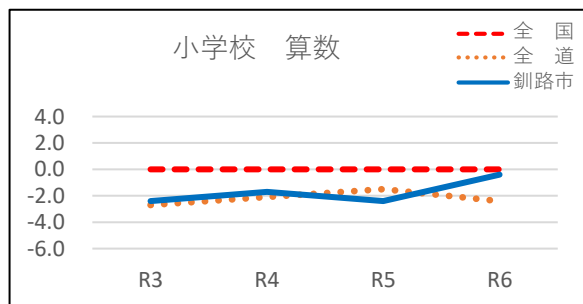
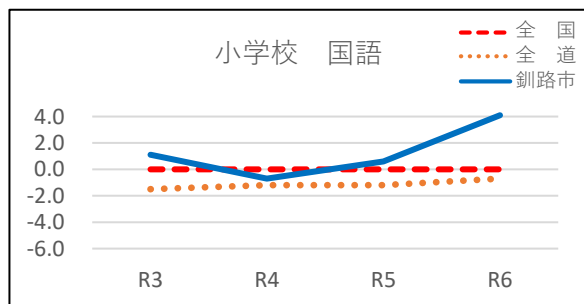
単位 (%)			単位 (%)		
小学校	国語	算数	中学校	国語	数学
全国	67.7	63.4	全国	58.1	52.5
全道	67	61	全道	58	51
釧路市立	72 [71.8]	63 [63.0]	釧路市立	57 [56.8]	50 [49.9]
全道比較			全道比較		
R6	+4.8	+2.0	R6	-1.2	-1.1
	+4.1	-0.4		-1.3	-2.6
R5	+0.6	-2.4	R5	-1.1	-3.1
R4	-0.7	-1.7	R4	-1.0	-4.7
R3	+1.1	-2.4	R3	-2.1	-3.9
R2	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により未実施		R2	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により未実施	

※国は、北海道及び市の平均正答率を整数値で提供。

〔 〕内の小数値は、北海道教育委員会及び釧路市教育委員会が国から提供されたデータをもとに、それぞれ独自に算出した数値である。なお、全国及び全道比較については、独自に算出した数値を比較したものである。

(以下参考数値)						(以下参考数値)					
		基礎	活用	基礎	活用			基礎	活用	基礎	活用
全国との比較	H30	+0.3	-1.1	-0.9	-3.4	全国との比較	H30	-0.4	-2.3	-4.2	-4.8
	H29	-1.1	-1.8	-1.2	-4.6		H29	-2.4	-2.5	-2.5	-3.9
	H28	+0.2	-1.3	-1.5	-2.8		H28	-1.7	-5.2	-2.1	-3.3
	H27	-1.5	-2.3	-2.2	-3.4		H27	-1.6	-2.1	-2.5	-3.6
	H26	+0.7	-4.5	-1.3	-5.9		H26	+0.3	-3.3	-1.6	-3.7
	H25	-3.4	-4.0	-1.3	-5.7		H25	-2.2	-5.2	-4.5	-6.8
	H24	-5.0	-4.5	-3.7	-4.8		H24	-2.2	-1.0	-4.3	-6.2
	H22	-5.0	-7.9	-9.6	-6.3		H22	-1.6	-5.7	-5.7	-7.0

全国平均との比較推移



◆内容・領域別の平均正答率

【小学校】国語5項目、算数2項目で、全国平均を上回っている。
国語の全項目、算数の全項目で、全道平均を上回っている。

【中学校】国語1項目で、全国平均を上回っている。
数学の全項目で、全国平均を下回る結果となっている。
国語2項目、算数1項目で、全道平均を上回っている。
特に、数学の「数と式」領域において、全国平均を4.4ポイント下回り、課題となっている。

小学校						
単位(%)						
国語	対象 問題数	全 国	全 道	釧路市立	全国 比較	全道 比較
言葉の特徴や使い 方に関する事項	4問	64.4	63.3	67.8	+3.4	+4.5
情報の扱い方に 関する事項	1問	86.9	86.3	87.3	+0.4	+1.0
我が国の言語文 化に関する事項	1問	74.6	74.3	80.5	+5.9	+6.2
話すこと・聞くこと	3問	59.8	58.3	63.9	+4.1	+5.6
書くこと	2問	68.4	67.4	73.9	+5.5	+6.5
読むこと	3問	70.7	70.4	75.2	+4.5	+4.8
単位(%)						
算数	対象 問題数	全 国	全 道	釧路市立	全国 比較	全道 比較
数と計算	6問	66	62.5	67.1	+1.1	+4.6
図形	4問	66.3	64.7	66.6	+0.3	+1.9
変化と関係	3問	51.7	47.8	48.3	-3.4	+0.5
データの活用	4問	61.8	59.7	60.9	-0.9	+1.2

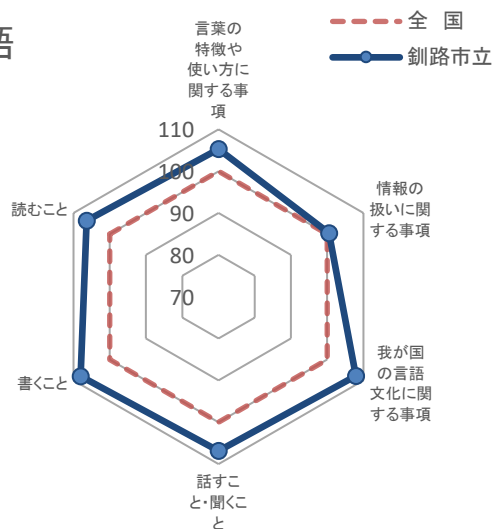
中学校						
単位(%)						
国語	対象 問題数	全 国	全 道	釧路市立	全国 比較	全道 比較
言葉の特徴や使い 方に関する事項	3問	59.2	58.6	58.5	-0.7	-0.1
情報の扱い方に 関する事項	2問	59.6	59.5	58.7	-0.9	-0.8
我が国の言語文 化に関する事項	1問	75.6	74.8	75.9	+0.3	+1.1
話すこと・聞くこと	3問	58.8	58.5	58.5	-0.3	+0.0
書くこと	2問	65.3	64.0	63.0	-2.3	-1.0
読むこと	4問	47.9	47.6	45.5	-2.4	-2.1
単位(%)						
数学	対象 問題数	全 国	全 道	釧路市立	全国 比較	全道 比較
数と式	5問	51.1	48.4	46.7	-4.4	-1.7
図形	3問	40.3	39.3	36.6	-3.7	-2.7
関数	4問	60.7	59.7	58.9	-1.8	-0.8
データの活用	4問	55.5	54.5	54.6	-0.9	+0.1

【レーダーチャート(内容・領域別)】

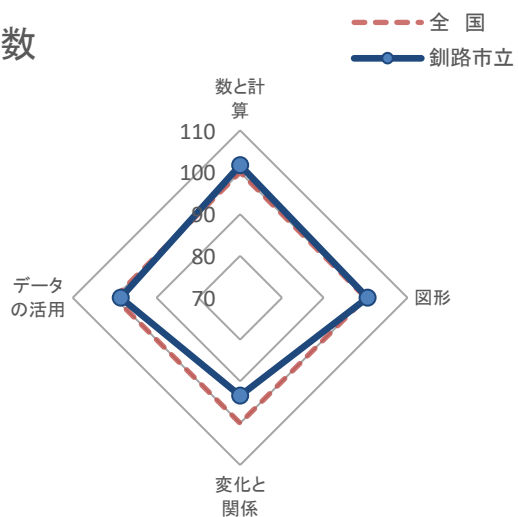
全国平均を100とする標準スコア

小学校

国語

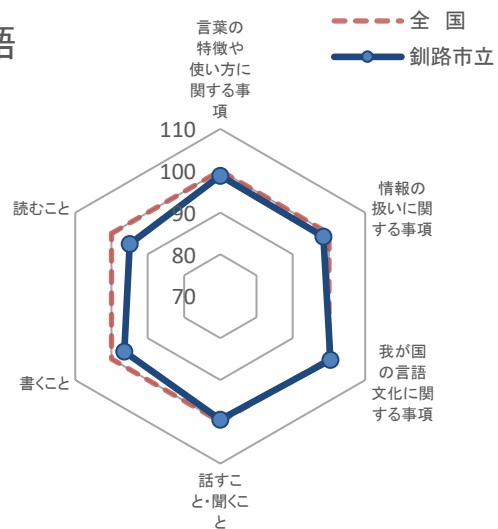


算数

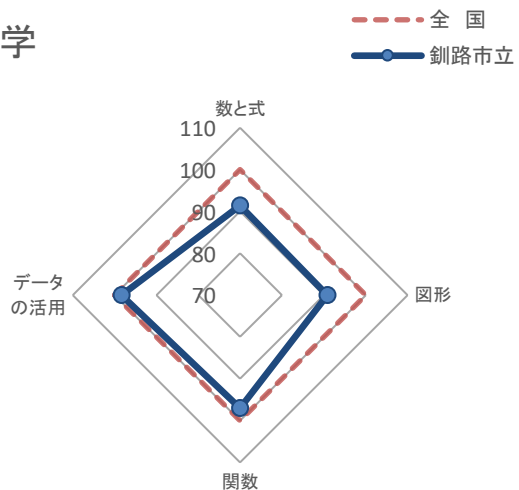


中学校

国語



数学



◆全国平均との比較達成状況一覧

小学校及び義務教育学校前期課程	26校	$P < -5$	$-5 \leq P < -3$	$-3 \leq P < 0$	$0 \leq P < 3$	$3 \leq P < 5$	$5 \leq P$
	国語	3校	1校	5校	1校	7校	9校
		(5校)	(3校)	(4校)	(9校)	(1校)	(4校)
	算数	7校	2校	5校	7校	0校	5校
		(9校)	(7校)	(2校)	(4校)	(1校)	(3校)

* () の校数は、令和5年度の全国平均との比較

中学校及び義務教育学校後期課程	15校	$P < -5$	$-5 \leq P < -3$	$-3 \leq P < 0$	$0 \leq P < 3$	$3 \leq P < 5$	$5 \leq P$
	国語	2校	2校	5校	2校	2校	2校
		(3校)	(1校)	(6校)	(0校)	(2校)	(3校)
	数学	4校	1校	5校	0校	3校	2校
		(6校)	(4校)	(2校)	(2校)	(0校)	(1校)

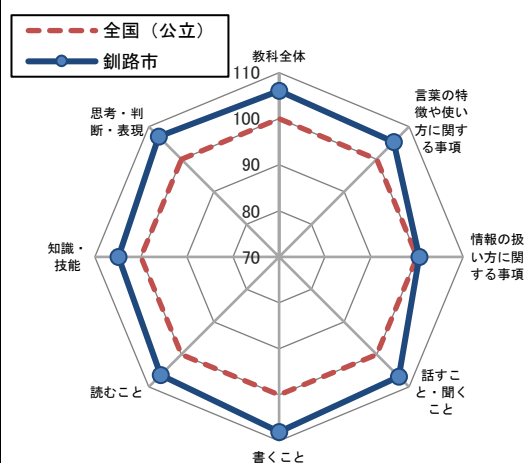
* () の校数は、令和5年度の全国平均との比較

Ⅱ 各教科の状況と指導改善のポイント

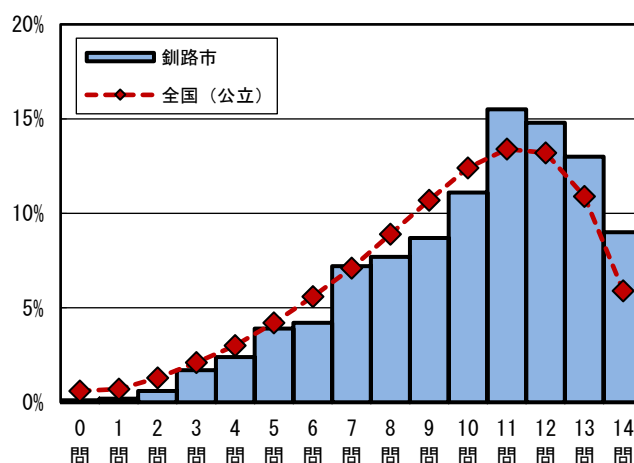
1 小学校国語

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（％）	中央値	標準偏差
釧路市	901	10.0 / 14	72 [71.8]	11.0	2.9
全国（公立）	947,364	9.5 / 14	67.2	10.0	3.1

【標準スコアによるカテゴリー間の比較】



【正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）】



【設問別正答率の概要】(◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問)

- ◇ 「【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する」設問（第5・6学年「情報の扱い方に関する事項」の内容）は、正答率87.3%（全国平均86.9%）である。[問題番号2一（2）]
- ◇ 「高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する」設問（第5・6学年「書くこと」の内容）は、正答率82.2%（全国平均80.3%）である。[問題番号2一（1）]
- ◇ 「【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く」設問（第5・6学年「読むこと」の内容）は、正答率81.6%（全国平均72.6%）である。[問題番号3三]
- ◆ 「【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（きょうぎ）」設問（第5・6学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」の内容）は、正答率50.9%（全国平均43.4%）である。[問題番号2三ア]
- ◆ 「オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する」設問（第5・6学年「話すこと・聞くこと」の内容）は、正答率57.8%（全国平均52.9%）である。[問題番号1二（2）]

【今後の指導について】

○ 文や文章の中で、漢字を正しく使う指導の充実

- ・ 漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにすることが大切です。新出漢字を読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を見直す中で、漢字のもつ意味を考えながら、各学年の発達段階に応じて文や文章の中での正しい使い方を習得できるよう指導しましょう。

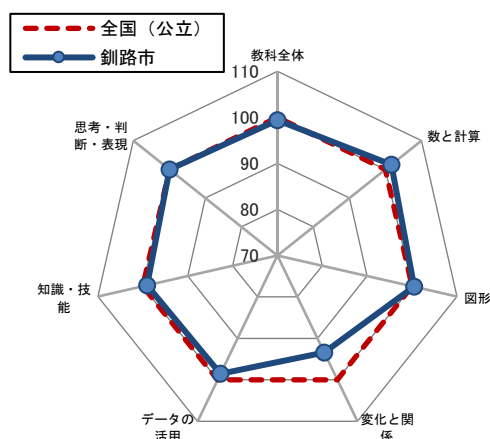
○ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導の充実

- ・ 資料を活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、相手や目的を一層意識し、どのような資料を用意すればよいかを考えることが大切です。また、実際に話す場面では、聞き手のうなずきや表情などにも注意しながら、聞き手の状況に応じて表現を工夫することも大切です。そのためには、音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに資料を使いながら話すことや、聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定し、目的や意図に応じて資料の順番を変えたり、適切な時間や機会での資料の提示の仕方について検討したりする時間を設けましょう。

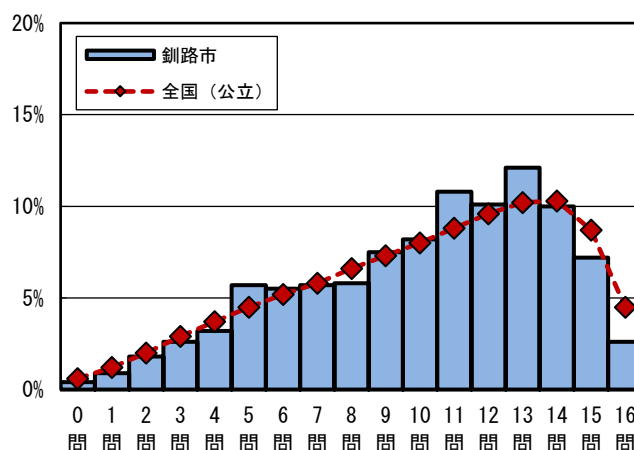
2 小学校算数

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（％）	中央値	標準偏差
釧路市	901	10.1 / 16	63 [63.0]	11.0	3.7
全国（公立）	947,579	10.1 / 16	63.4	11.0	3.9

【標準スコアによるカテゴリー間の比較】



【正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）】



【設問別正答率の概要】(◇正答率が高い設問◆正答率が低い等課題がみられる設問)

- ◇ 「はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの，問題場面を表す式を選ぶ」設問（第3学年「A数と計算」の内容）は，正答率88.8％（全国平均88.5％）である。[問題番号1（2）]
- ◇ 「作成途中の直方体の見取図について，辺として正しいものを選ぶ」設問（第4学年「B図形」の内容）は，正答率84.4％（全国平均85.5％）である。[問題番号3（1）]
- ◇ 「円グラフから，2023年の桜の開花日について，4月の割合を読み取って書く」設問（第5学年「Dデータの活用」の内容）は，正答率81.1％（全国平均80.8％）である。[問題番号5（1）]
- ◆ 「家から学校までの道のりが等しく，かかった時間が異なる二人の速さについて，どちらが速いかを判断し，そのわけを書く」設問（第5学年「C変化と関係」の内容）は，正答率27.6％（全国平均31.0％）である。[問題番号4（3）]
- ◆ 「直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く」設問（第3学年，第5学年「B図形」の内容）は，正答率37.1％（全国平均36.5％）である。[問題番号3（3）]
- ◆ 「折れ線グラフから，開花日の月について，3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り，その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く」設問（第3学年，第4学年，「Dデータの活用」）は，正答率39.8％（全国平均44.0％）である。[問題番号5（3）]

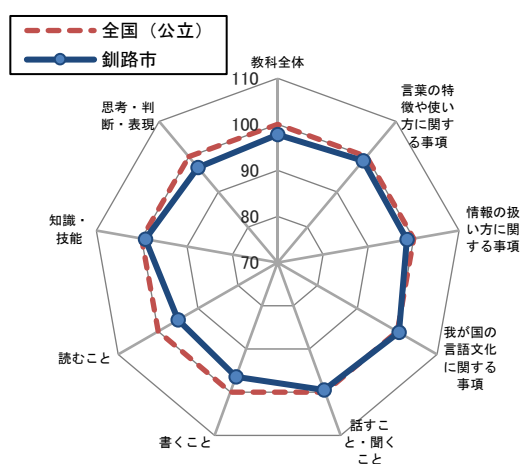
【今後の指導について】

- 二つの数量の関係に着目し，場面に応じて速さの比べ方を考察することができるようにする指導の充実
 - ・ 場面や目的に応じて，単位時間あたりに移動する長さや，一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え，速さを比べることができるようにすることが大切です。速さを比べるときには，時間と道のりという二つの量が必要になることに気付かせたり，場面に応じて処理の仕方を考えさせたりする学習活動を工夫しましょう。
- 図形を構成する要素を見だし，それらを活用して体積を求めることができるようにする指導の充実
 - ・ 身の回りの形から図形を捉え，図形を構成する要素を見だし，体積を求めるために必要な情報を判断できるようにすることが大切です。そのためには，図形を観察や構成する活動を通して，図形の性質を実感を伴って理解できるように学習活動を工夫しましょう。
- グラフを読み取り，見いだしたことを表現できるようにする指導の充実
 - ・ 日常生活の場面のデータをグラフに表し，そのグラフから特徴や傾向を捉え，見いだしたことを表現できるようにすることが大切です。そのために，グラフの傾きや重なりなどに着目させるとともに，グラフのどの部分やどの数値を基に判断したかを，他者と伝え合う学習活動を充実させましょう。

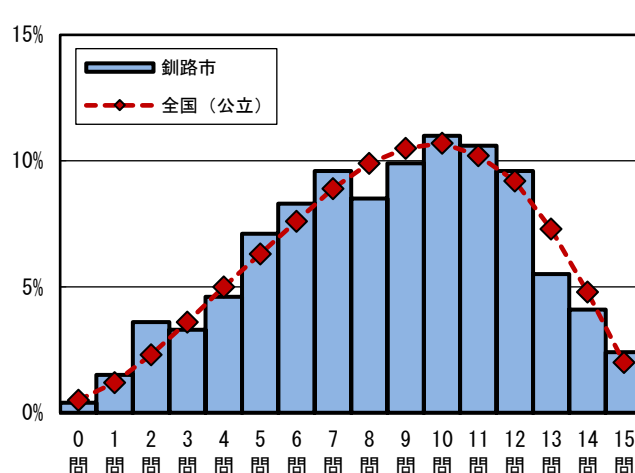
3 中学校国語

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（％）	中央値	標準偏差
釧路市	933	8.5 / 15	57 [56.8]	9.0	3.4
全国（公立）	875,574	8.7 / 15	58.1	9.0	3.4

【標準スコアによるカテゴリー間の比較】



【正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）】



【設問別正答率の概要】（◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問）

- ◇「話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する」設問（第1学年「話すこと・聞くこと」の内容）は、正答率64.8%（全国平均63.2%）である。〔問題番号1一〕
- ◇「漢字を書く（みちたりた）」設問（第2学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」の内容）は、正答率70.3%（全国平均68.8%）である。〔問題番号3三〕
- ◇「行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する」設問（第1学年「我が国の言語文化に関する事項」の内容）は、正答率75.9%（全国平均75.6%）である。〔問題番号4三〕
- ◆「本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する」設問（第1学年「読むこと」の内容）は、正答率37.2%（全国平均42.6%）である。また、無解答率は11.3%である。〔問題番号2四〕
- ◆「物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する」設問（第2学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」の内容）は、正答率50.2%（全国平均53.8%）である。〔問題番号3二〕
- ◆「表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する」設問（第2学年「書くこと」の内容）は、正答率45.1%（全国平均49.3%）である。また、無解答率は21.5%である。〔問題番号3四〕

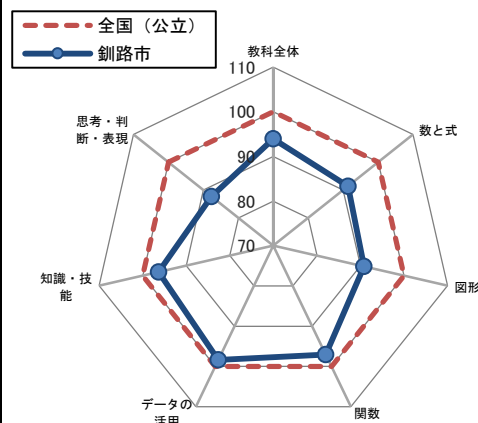
【今後の指導について】

- 目的に応じて必要な情報に着目して要約する指導の充実
 - ・ 要約する際には、目的を明確にすることが大切です。その上で、要約したものが目的に沿っているかどうか、必要な情報を適切に取り出してまとめられているかを確認した上で、適切さや正確さを意識して要約することができるよう指導しましょう。
- 文の成分の順序や照応について理解し、活用する指導の充実
 - ・ 日本語は、文の成分の順序が比較的柔軟であるという特徴をもっているため、語順の違いによって表現がどのように変わってくるかを、様々な文型について考え、理解することができるよう指導することが大切です。指導する際には、読み手の立場に立って自分が書いた文章を推敲する機会などを捉えて、文の成分の順序や照応に注目して文章を読み直し、分かりやすい文章に整えていくなどの学習活動を工夫しましょう。
- 自分の伝えたいことが伝わるように、表現の効果を考えて工夫して書く指導の充実
 - ・ 自分の考えが伝わる文章を書くためには、用いた語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを確かめながら、より効果的な語句や表現を選ぶことが大切です。そのためには、下書きした文章などを読み合い、自分の伝えたいことが伝わるような描写になっているかなどを、説明したり確かめたりするなどの学習活動を工夫しましょう。

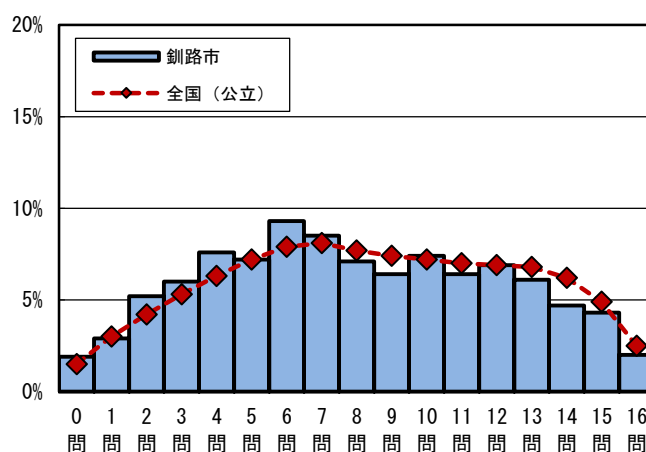
4 中学校数学

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（％）	中央値	標準偏差
釧路市	932	8.0 / 16	50 [49.9]	8.0	4.1
全国（公立）	875,952	8.4 / 16	52.5	8.0	4.1

【標準スコアによるカテゴリー間の比較】



【正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）】



【設問別正答率の概要】(◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問)

- ◇ 「2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める」設問（第2学年「Dデータの活用」の内容）は、正答率77.1%（全国平均73.1%）である。[問題番号5]
- ◇ 「正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3，-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める」設問（第1学年「A数と式」の内容）は、正答率86.9%（全国平均90.2%）である。[問題番号6（1）]
- ◆ 「等式 $6x + 2y = 1$ を y について解く」設問（第2学年「A数と式」の内容）は、正答率44.7%（全国平均52.5%）である。また、無解答率は、10.5%（全国平均9.7%）である。[問題番号2]
- ◆ 「車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する」設問（第2学年「Dデータの活用」の内容）は、正答率20.3%（全国平均25.9%）である。また、無解答率は、34.8%（全国平均29.4%）である。[問題番号7（2）]
- ◆ 「正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する」設問（第2学年「A数と式」の内容）は、正答率37.0%（全国平均41.8%）である。また、無解答率は、33.7%（全国平均29.6%）である。[問題番号6（3）]

【今後の指導について】

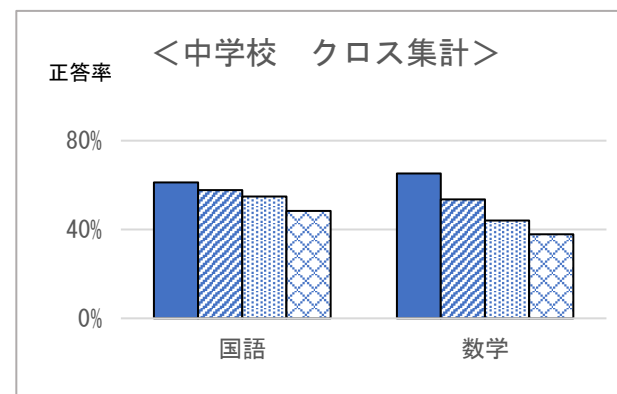
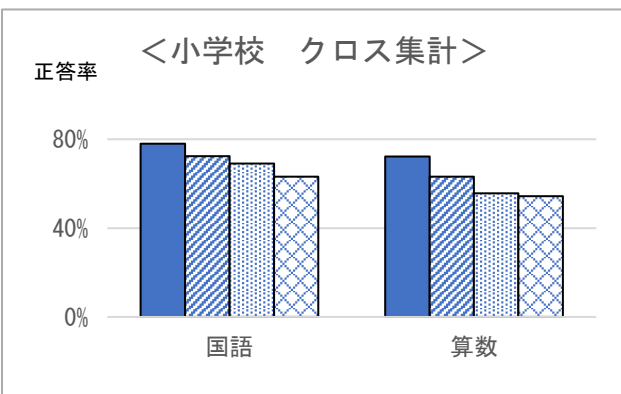
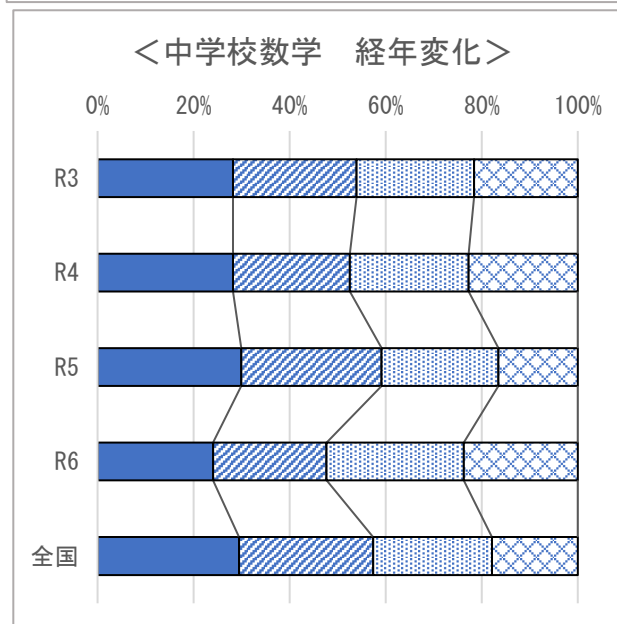
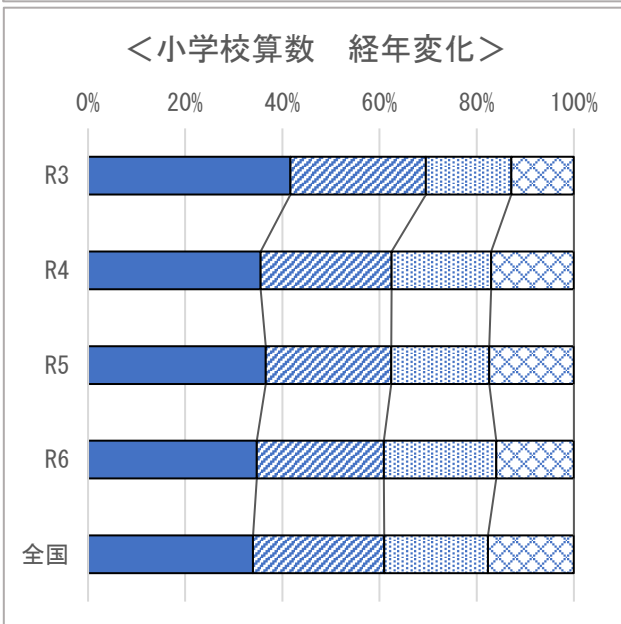
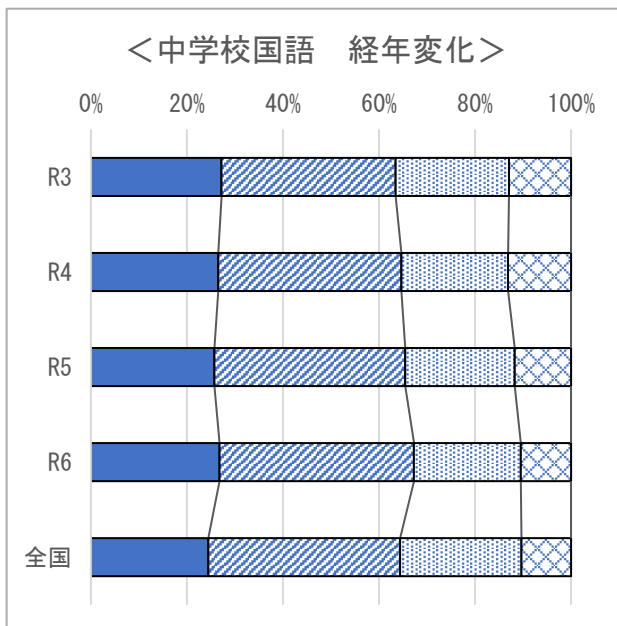
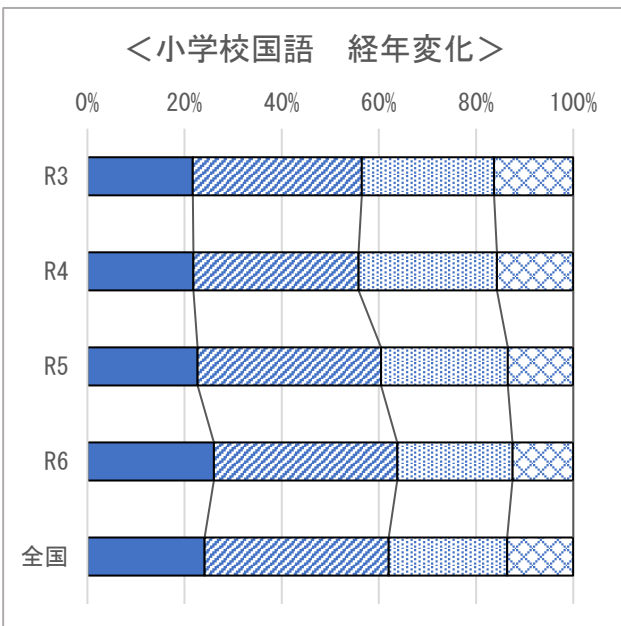
- 具体的な場面で目的に応じて等式を変形し活用できるようにする指導の充実
 - ・ 二つ以上の文字を用いて数量の関係について考察する場面を設定し、等式の性質などを用いて目的に応じて等式を変形できるように指導しましょう。
- データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする指導の充実
 - ・ データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるように指導しましょう。
- 問題の条件を変えて考え、成り立つ事柄を見いだし数学的に表現できるようにする指導の充実
 - ・ 問題の条件を変えて見いだした事柄について、具体的な整数で計算して予想したり、文字を用いて明らかにしたりする場面を設定し、数学的に表現できるように指導しましょう。
- 問題解決の過程や結果を振り返り、統合的・発展的に考察できるようにする指導の充実
 - ・ 数学の事象から問題を見いだし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って数量や図形などの性質を見いだし、統合的・発展的に考察できるように指導しましょう。

Ⅲ 児童生徒質問調査結果の概要

(1) 学習に対する興味・関心等に関する項目

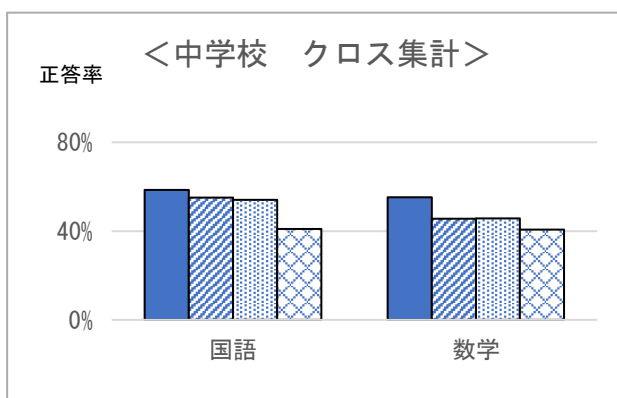
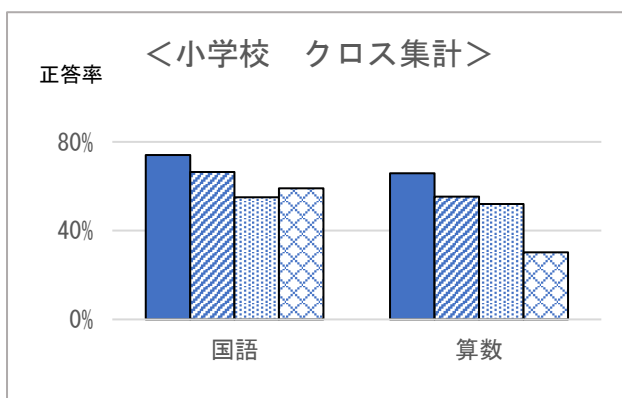
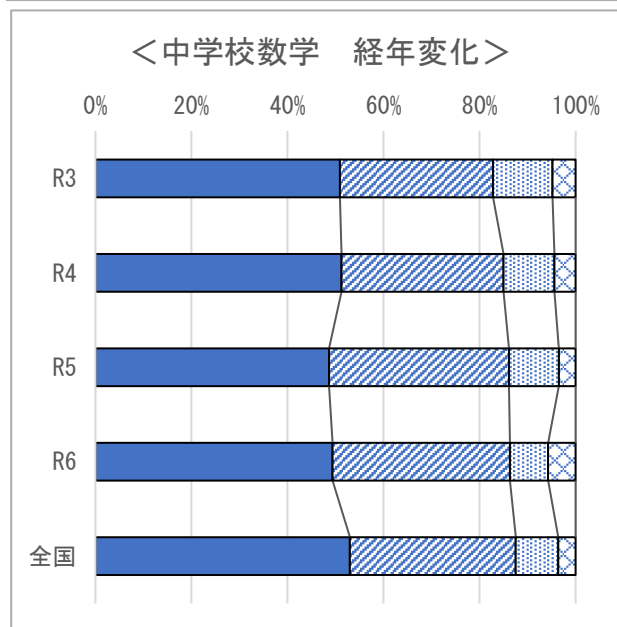
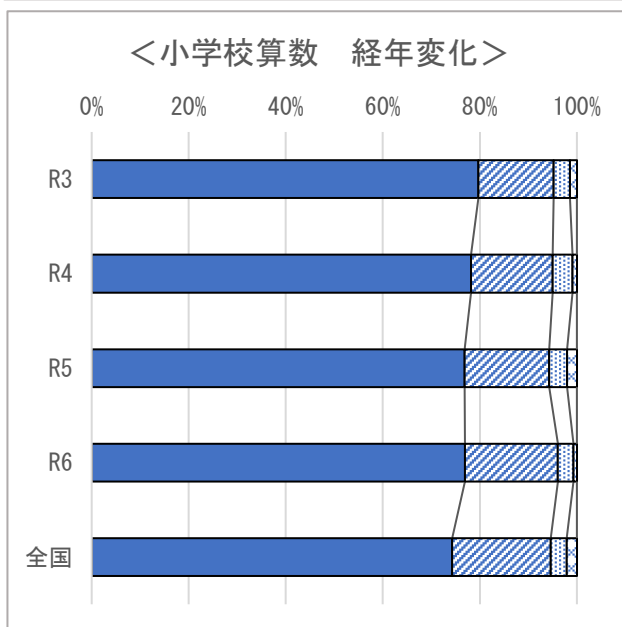
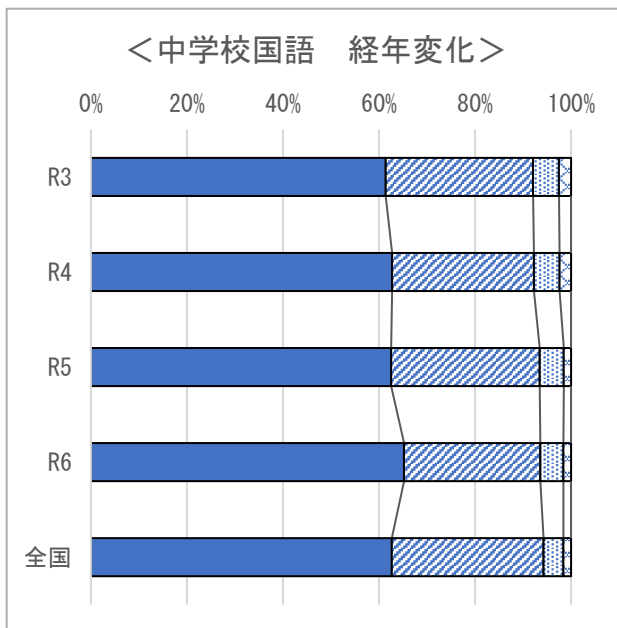
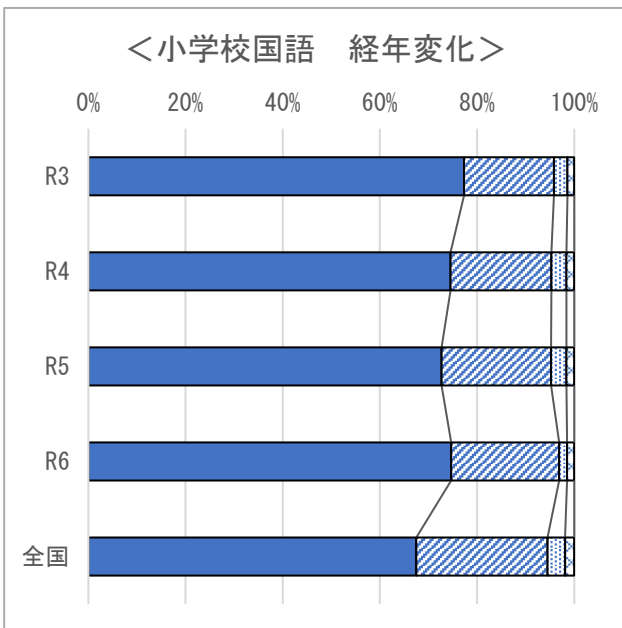
①「国語、算数・数学の勉強は好き」

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



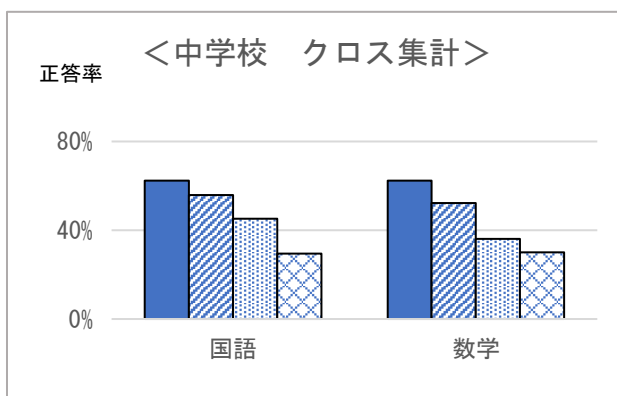
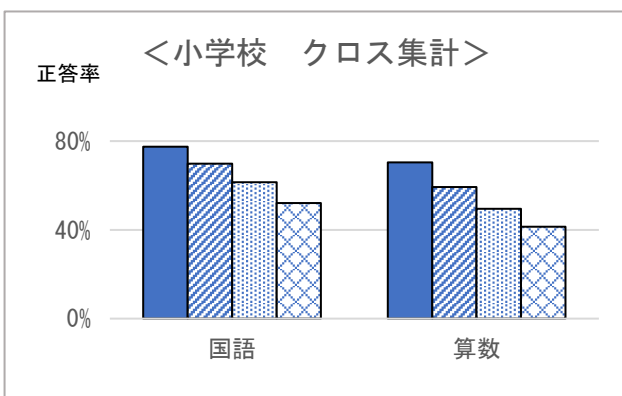
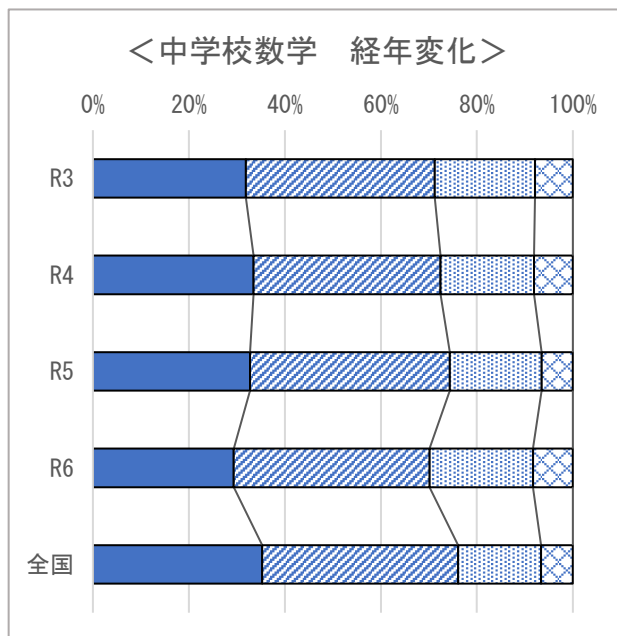
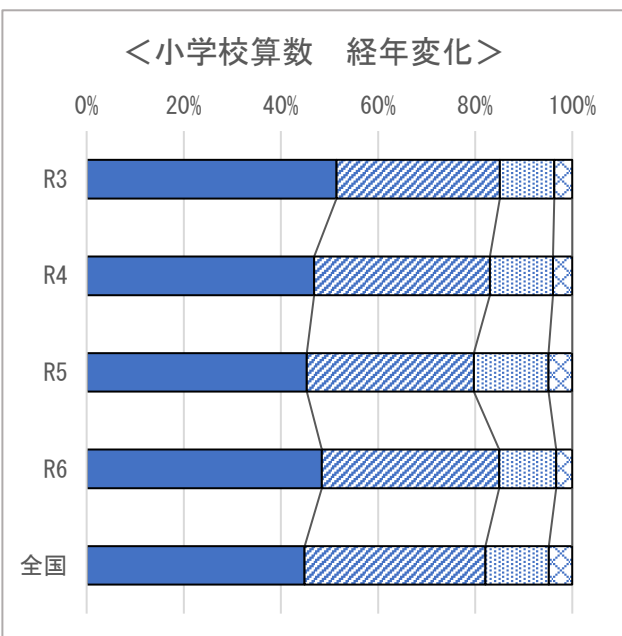
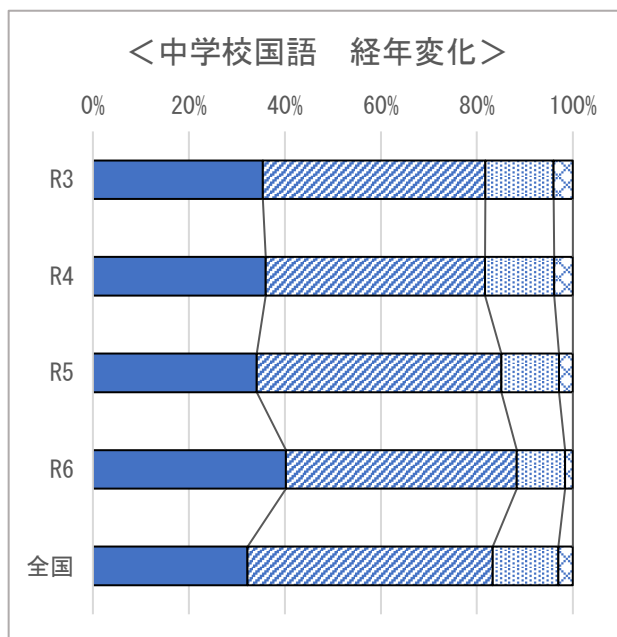
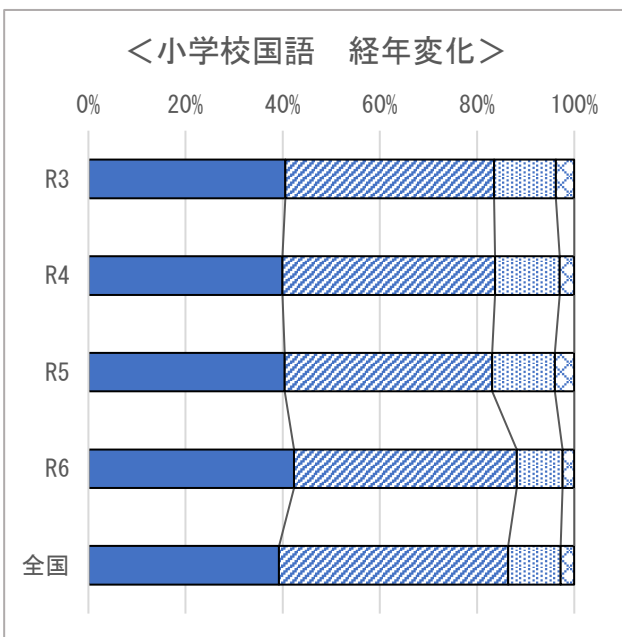
②「国語、算数・数学の勉強は大切だと思う」

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



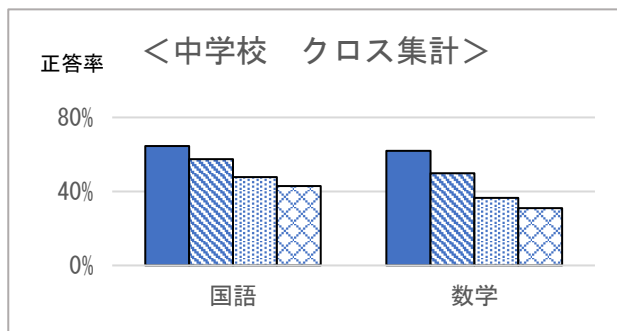
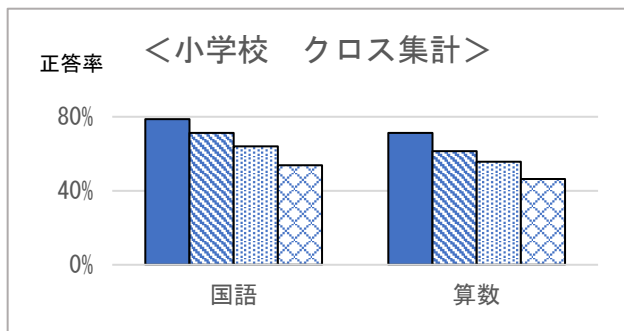
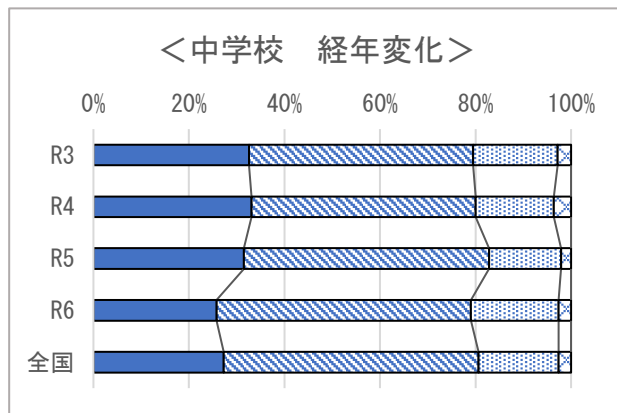
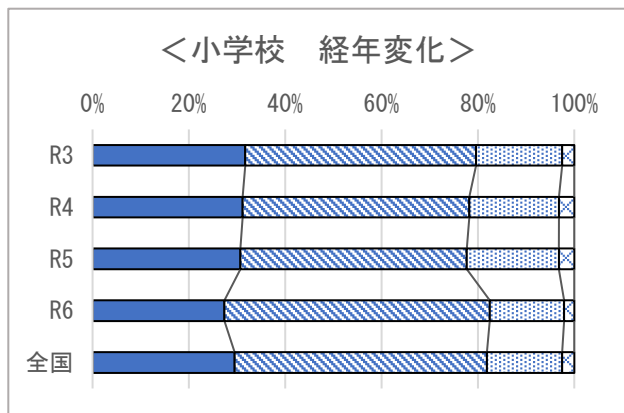
③「国語、算数・数学の授業の内容はよく分かる」

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる ▨どちらかといえば、当てはまらない ▩当てはまらない



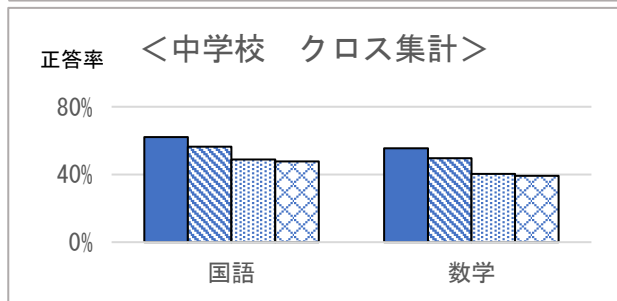
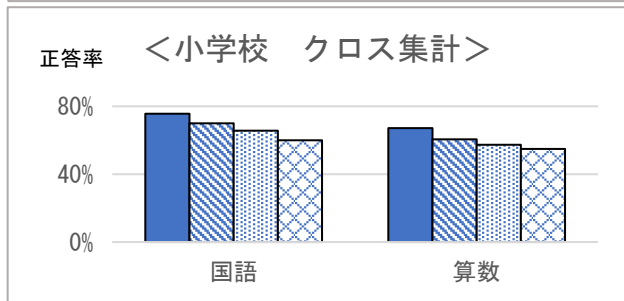
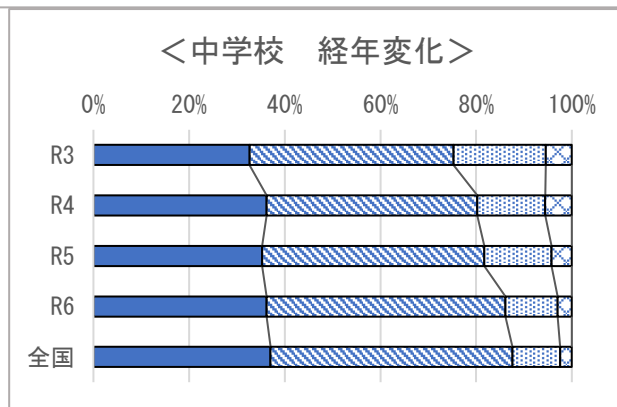
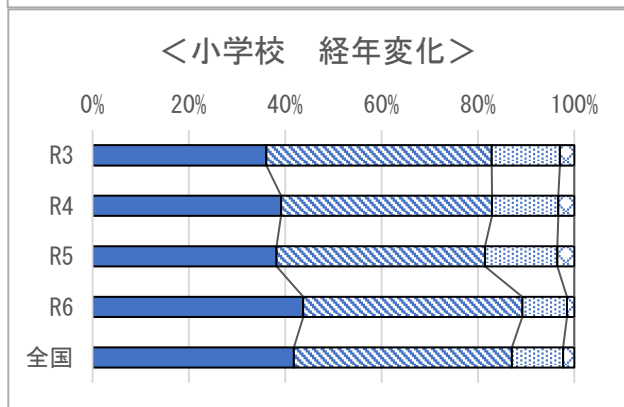
④「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



⑤「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていた」

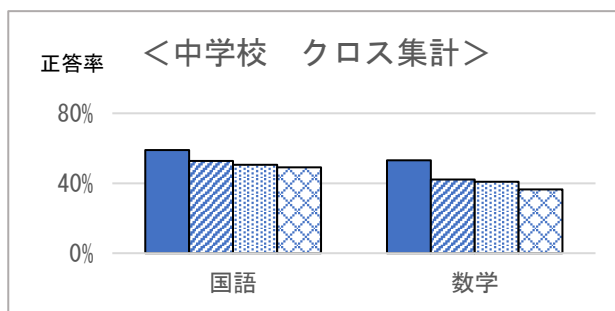
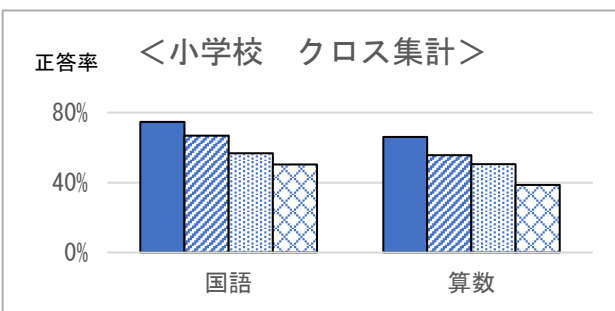
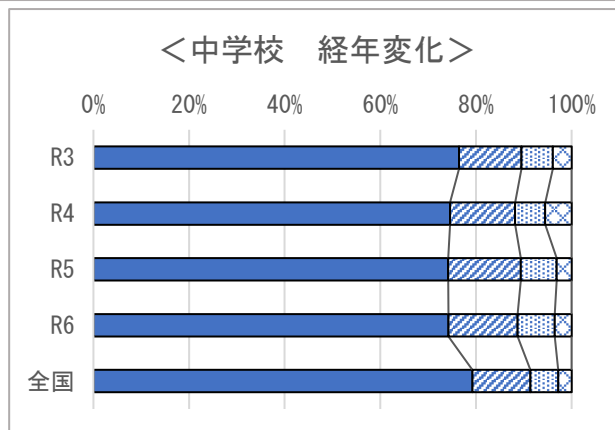
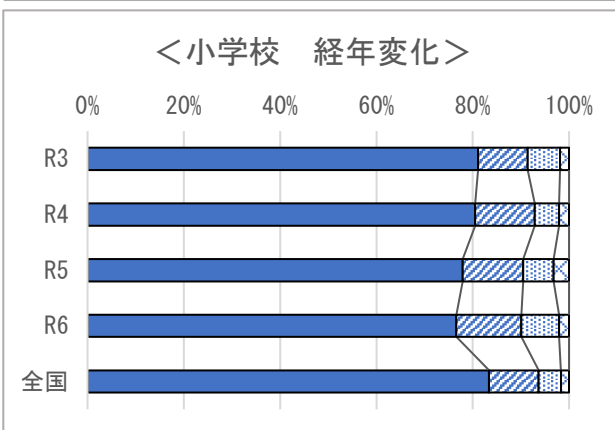
■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



(2) 基本的生活習慣等に関する項目

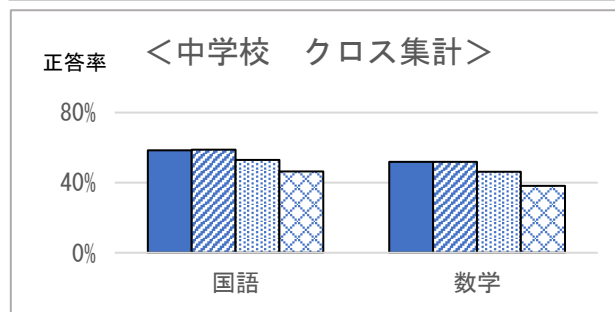
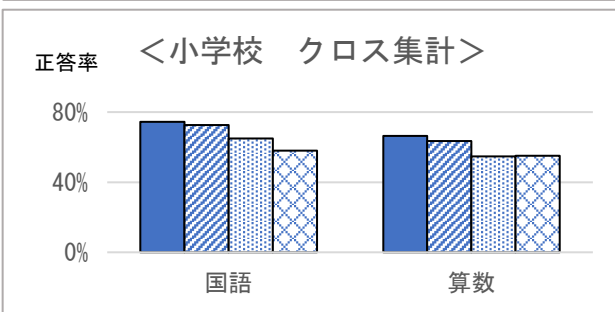
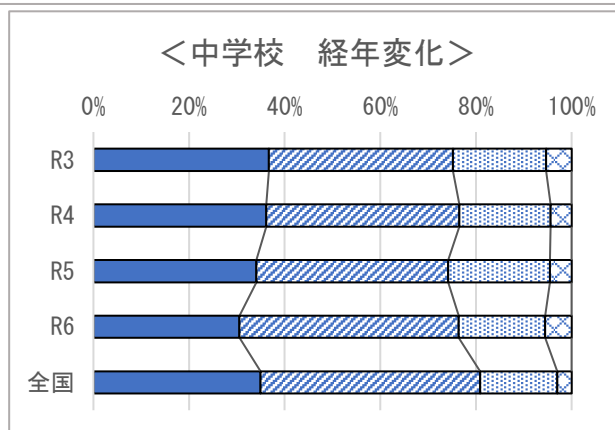
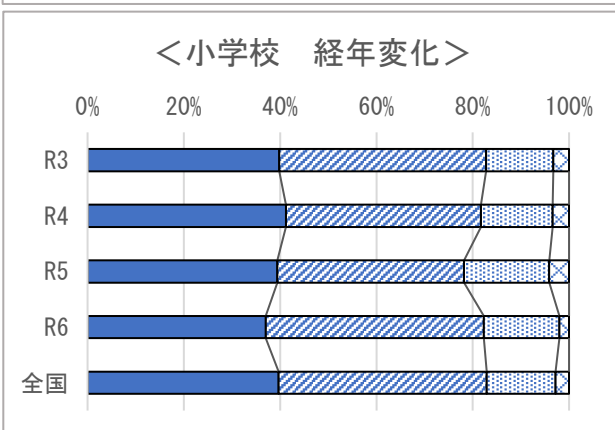
①「朝食を毎日食べている」

■ している ▨ どちらかといえば、している ▩ あまりしていない □ 全くしていない



②「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」

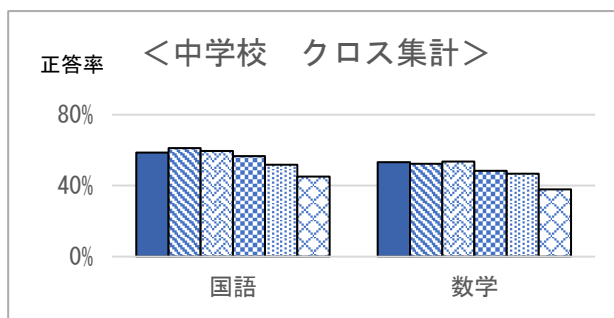
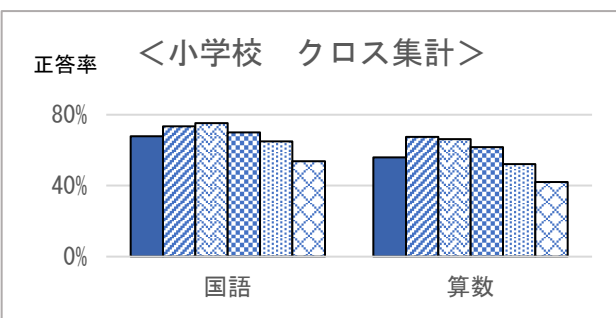
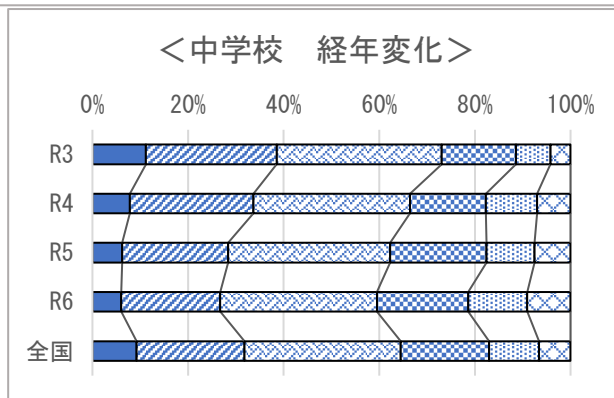
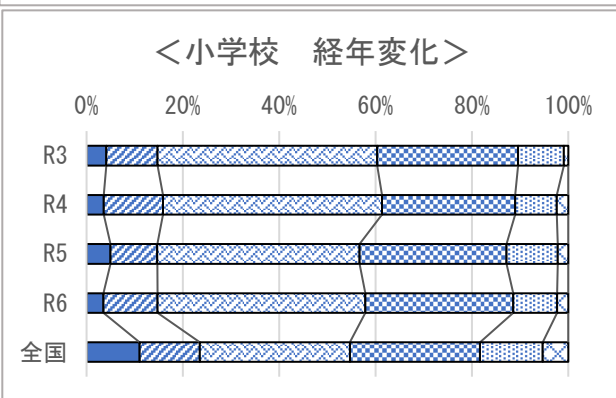
■ している ▨ どちらかといえば、している ▩ あまりしていない □ 全くしていない



(3) 学習習慣・学習環境等に関する項目

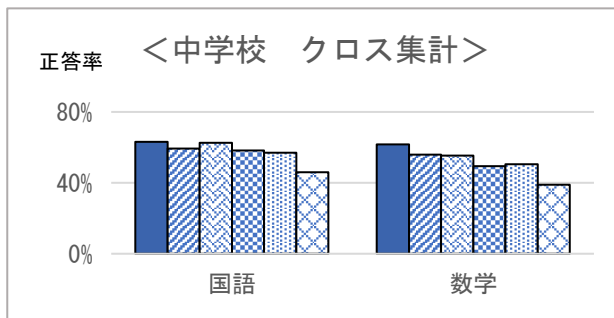
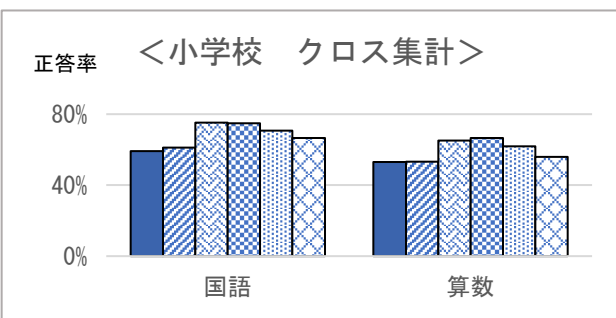
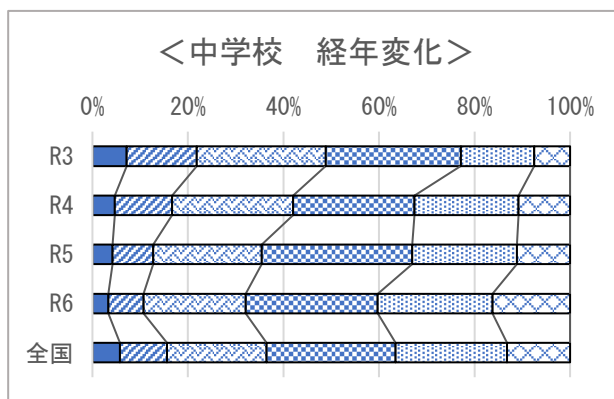
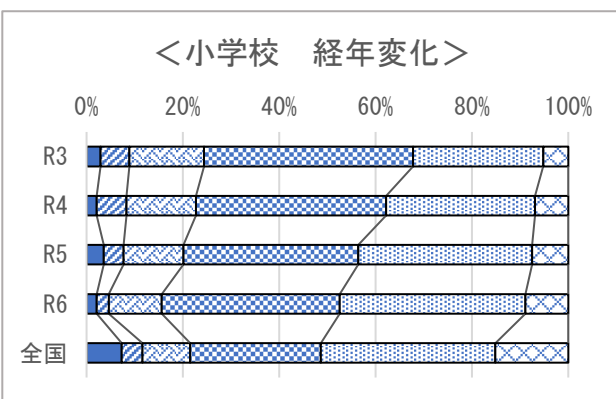
①「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、勉強する1日当たりの時間（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」

- 3時間以上 □ 2時間以上、3時間より少ない □ 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない □ 30分より少ない □ 全くしない



②土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

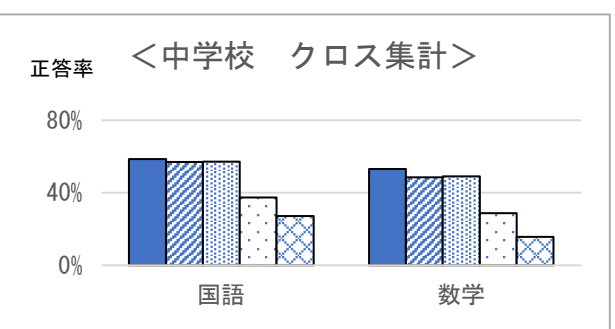
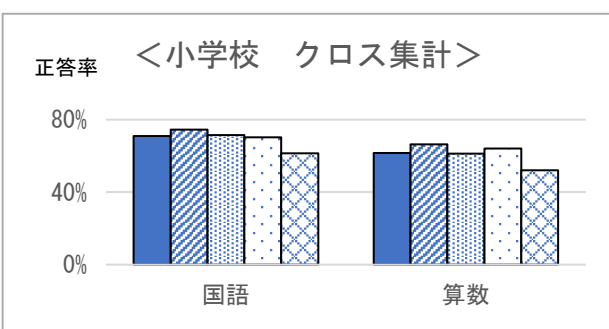
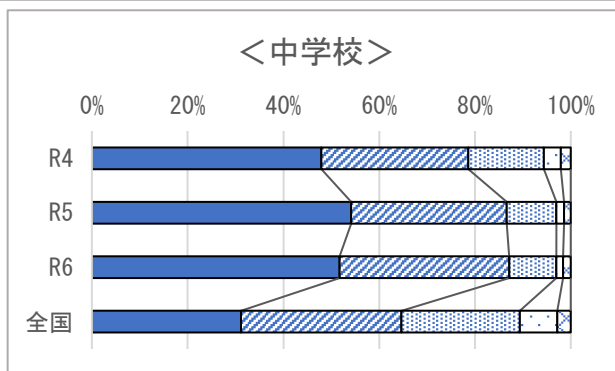
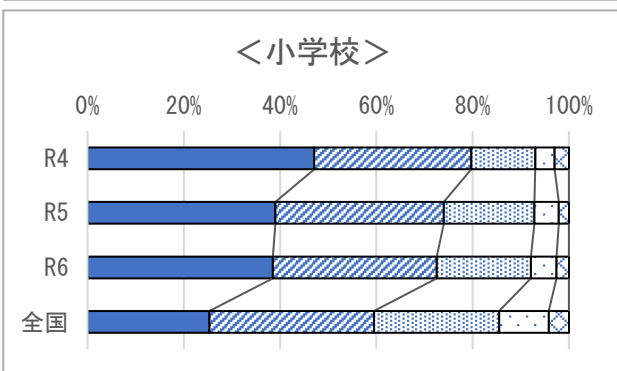
- 4時間以上 □ 3時間以上、4時間より少ない □ 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない □ 1時間より少ない □ 全くしない



（４）ＩＣＴを活用した学習状況に関する項目（Ｒ４以降）

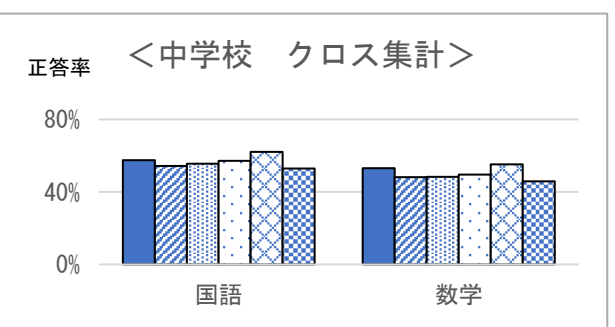
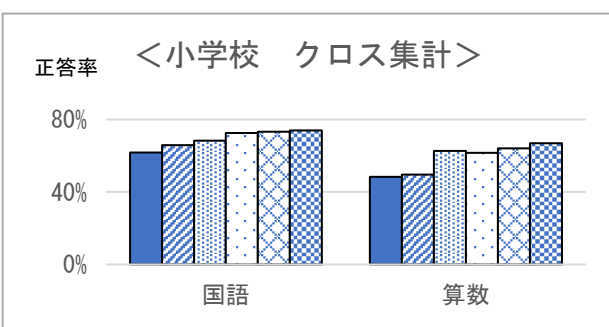
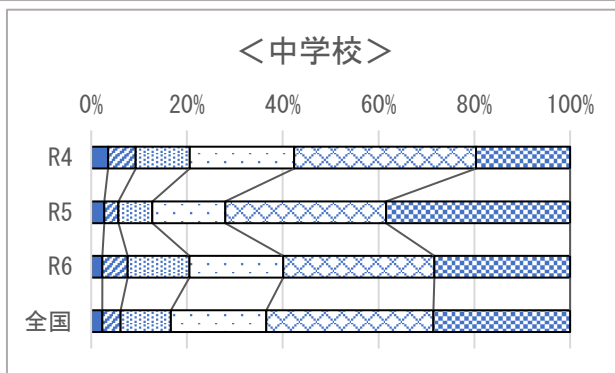
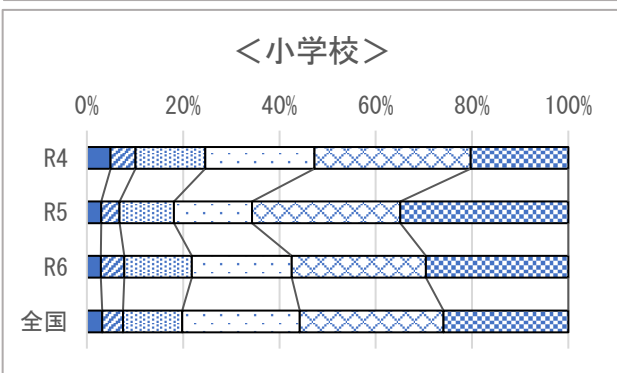
①「前年度までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用した程度」

■ほぼ毎日 ▨週3回以上 ▩週1回以上 □月1回以上 □月1回未満



②「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、勉強のために使う程度（遊びなどの目的に使う時間は除く）」

■3時間以上 ▨2時間以上、3時間より少ない ▩30分以上、1時間より少ない □全く使っていない



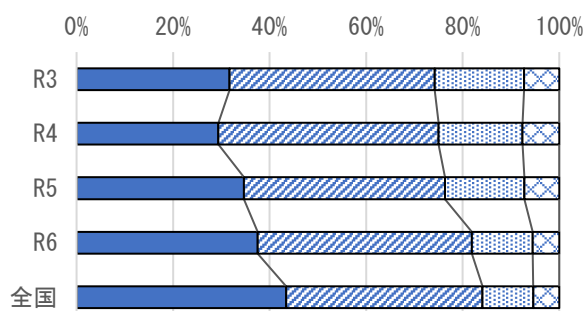
（５）挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等に関する項目

①「自分には、よいところがあると思う」

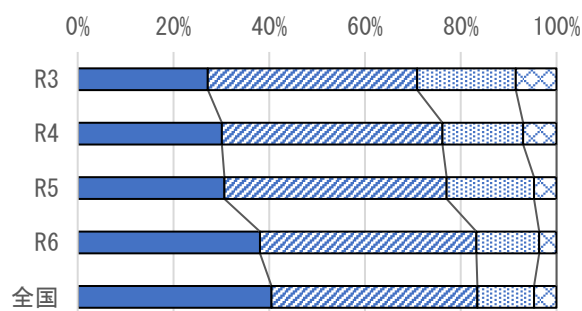
■当てはまる
▨どちらかといえば、当てはまらない

▨どちらかといえば、当てはまる
□当てはまらない

＜小学校 経年変化＞



＜中学校 経年変化＞

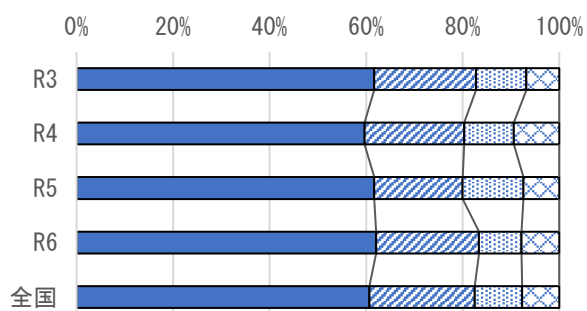


②「将来の夢や目標を持っている」

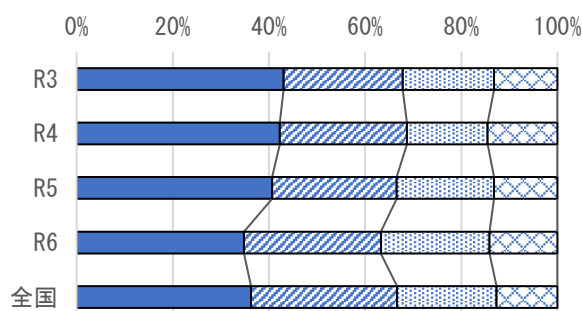
■当てはまる
▨どちらかといえば、当てはまらない

▨どちらかといえば、当てはまる
□当てはまらない

＜小学校 経年変化＞



＜中学校 経年変化＞

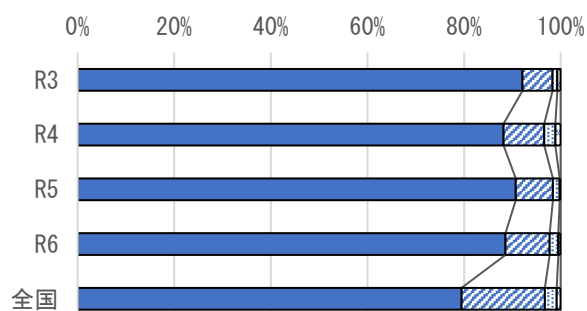


③「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」

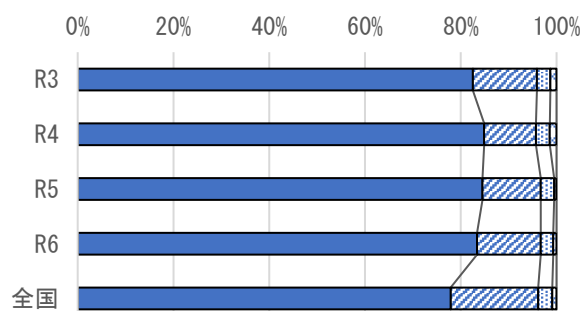
■当てはまる
▨どちらかといえば、当てはまらない

▨どちらかといえば、当てはまる
□当てはまらない

＜小学校 経年変化＞

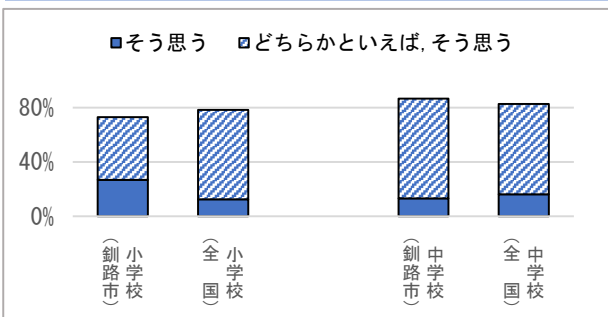


＜中学校 経年変化＞

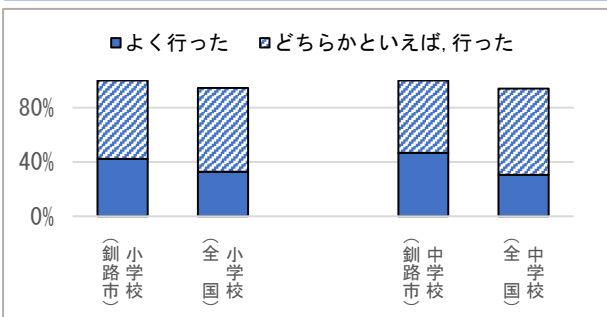


IV 学校質問調査結果の概要

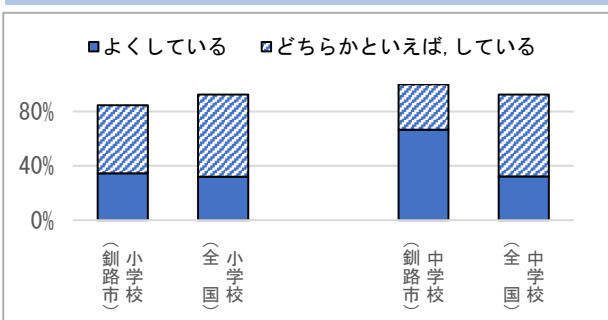
①「授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができる」



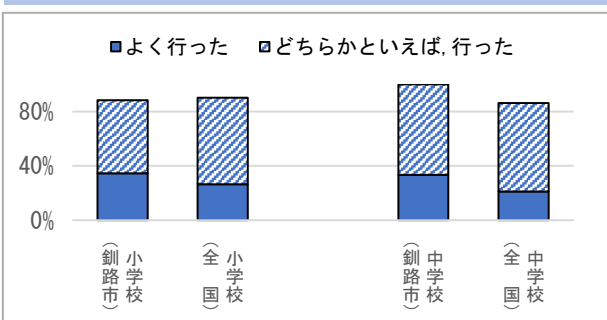
②「学習指導において、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した」



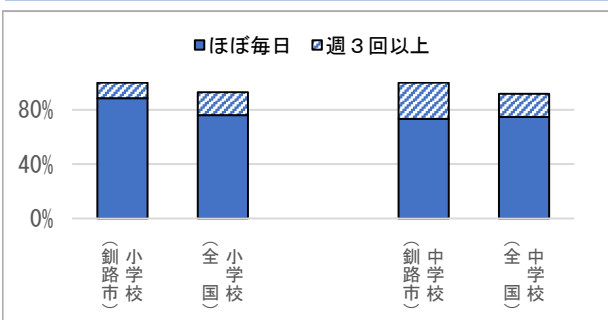
③「学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行った」



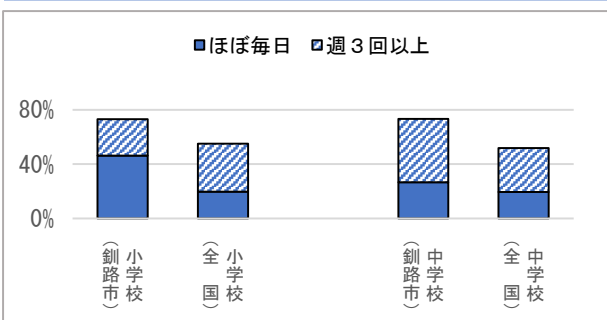
④「学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫した」



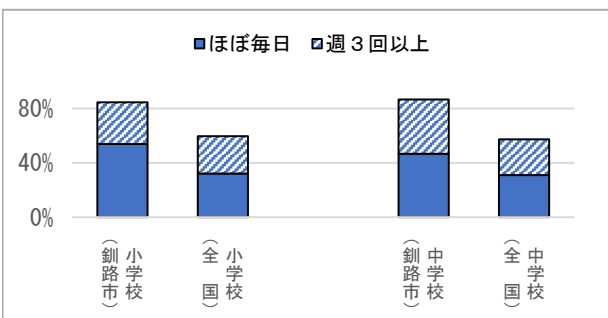
⑤「前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を行った1クラス当たりの程度」



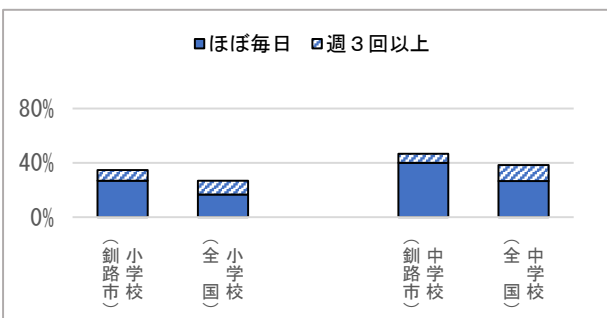
⑥「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した程度」



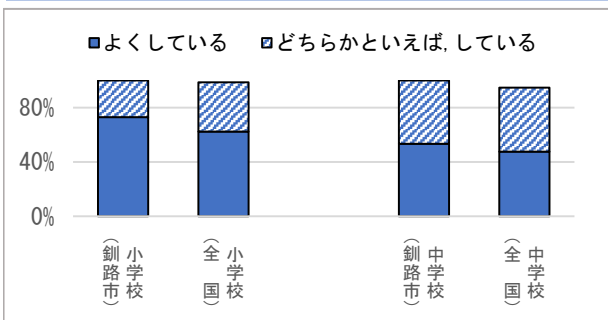
⑦「教職員と児童生徒がやりとりする場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した程度」



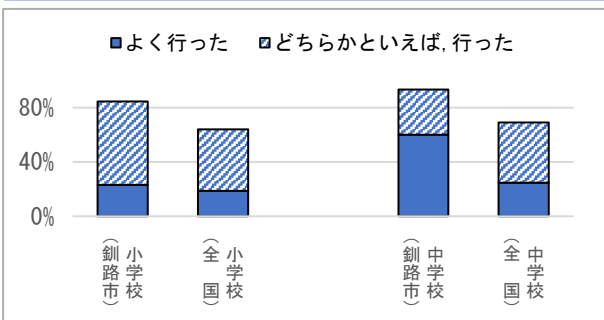
⑧「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童生徒に対する学習活動等の支援に活用した程度」



⑨「授業研究や事例研究等，実践的な研修の実施」



⑩「前年度までに，近隣等の小学校（中学校）との，教科の教育課程の接続や，教科に関する共通の目標設定等，教育課程に関する共通の取組」



V 本市の主な傾向（児童生徒質問調査及び学校質問調査より）

- 「勉強は大切だと思うか」の質問について，小学校国語，算数において，肯定的に回答した児童の割合は全国平均（以下，全国）を上回っている。一方，中学校国語，数学において，肯定的に回答した生徒の割合は全国を下回っている。また，肯定的に回答した児童生徒ほど，教科の平均正答率が高い傾向がみられる。
- 「課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたか」の質問について，小学校において，肯定的に回答した児童の割合は全国を上回っている。しかし，中学校において，肯定的に回答した生徒の割合は全国を下回り，前年度よりも減少している。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができるか」の質問について，小学校において，肯定的に回答した児童の割合は全国を上回っている。しかし，中学校において，肯定的に回答した生徒の割合は全国を下回っている。
- 「普段（月曜日から金曜日）の学校の授業時間以外に勉強する時間」について，小・中学校ともに「2時間以上」勉強している児童生徒の割合は全国を下回っている。また，中学校において，「30分より少ない」と「全くしない」を合わせた生徒の割合は20%を超えている。
- 「PC・タブレットなどのICT機器を，勉強のために使う程度」について，「ほぼ毎日」または「週3回以上」と回答した児童生徒の割合は，小・中学校ともに全国を上回っている。
- 「自分には，よいところがあると思うか」の質問について，肯定的に回答した児童生徒の割合は全国を下回っているが，経年変化を見ると，小・中学校ともに肯定的に回答する児童生徒の割合は増加傾向にある。
- 学校質問調査における「学習指導において，他者と情報交換して話し合ったり，異なる視点から考えたり，協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した」の質問について，小・中学校ともに肯定的に回答した学校の割合は全国を上回っている。
- 「ICTを活用した学習状況」について，「自分の考えをまとめ，発表・表現する場面」または，「教職員と児童生徒がやりとりする場面」においてICTを使用する程度は，小・中学校ともに全国よりも高い頻度で活用している。
- 「不登校児童生徒に対する学習活動等の支援」にICTを活用した程度は，小・中学校ともに，全国よりも高い頻度で活用している。
- 「小・中連携」に関する質問について，学校質問調査の回答では，授業研究，教科指導，教育課程に関する取組について，全国よりも小・中学校が連携を図っている傾向がみられる。

〔釧路市が目指す授業〕

子供たちが主役の 「学ぶ意味と学ぶ楽しさを 感じられる授業」

令和の日本型学校教育

「個別最適な学び」と
「協働的な学び」の
一体的な充実



学習指導要領

主体的・対話的で深い学びを
実現する授業

子供たちが主体的に学ぶ

子供たちが多様な他者と関わりながら学ぶ

子供たちが確かな学力を身に付ける

釧路市が目指す授業



子供たちが主役の
「学ぶ意味と学ぶ楽しさを
感じられる授業」



協力し合い

新たな学びや教材との出会い

相手意識



励まし合い

学び合い



キーワード

認め合い

「あい」あふれる授業の展開



教え合い

助け合い

〇〇愛

話し合い

私(I)は～

相づち
（「なるほど」等）

高め合い

聴き合い